

外来の眼瞼手術備忘録

釣巻 穰 著

「眼窩疾患シンポジウム」に参加している眼科医たちは、眼形成外科医の強者、曲者ばかりである。本書の著者、釣巻穰博士は、この第16回学会を主催された。いうまでもなく眼形成外科についての経験と実力を評価されたからである。

氏は自治医科大学の助教授から大宮医療センターの眼科医長を歴任され、その後約8年の開業歴がある。経歴の前半は当然のこととして、開業歴8年の後段のほうがさらに重要である。眼科開業は（特に眼形成外科医は）、いまや恒常化しつつある「モンスターベイシメント」に対応できる知識と胆力を必要とするのはもちろん、その前にトラブルを発生させない予防能力が要求される時代だからである。そのためには多数の経験を積むしかない。その意味で氏の経験のエッセンスを披瀝された本書は、眼科研修医、一般開業医、そのなかでも“occasional surgeon”にとって最適の指南書である。

最近の若い眼科医は、研修の比較的初期から各専門別に特化して勉強する傾向がある。白内障の手術だけを覚えて霰粒腫さえ切れない、斜視の手術などやったこともないのではないかと疑いたくなるような眼科医もいるのではないか。「眼瞼下垂は形成外科医にまかせればよい」などと広言してはばからない教職者さえい

るのである。おかげで本書の類がますます必要となり、結果的に価値あらしめてくれているのは有難いといいたい。が、実は眼科医にとってはた迷惑な発言に近い。

当分老人人口は増え続け、若年者は減るばかりである。加齢に関する外眼部疾患は増加する一方である。最近、当院の脇舩耕一医師が眼瞼下垂術後のQOLの改善が、白内障術後と同等に高く評価されることを証明した（第23回眼窩疾患シンポジウムで発表）。眼瞼下垂手術も本書を読んで是非自家薬籠のものとしていただきたいと思う。本書には重要な外来の眼瞼手術について、器具、解剖、手術準備から疾患についての解説まで詳しく述べられている。

そして「あとがき」で氏はいみじくもこう結ばれている。「かつて自分自身は医局でガラス片手に数々の手術のことを教訓的に学んだ。現在はそのようなことも少なくなった。これらに変わるメモとして本書を次の世代に伝えたい」と。

井出眼科病院院長 井出 醇

●B5 頁124 2008年

定価 9,345 円（本体 8,900 円＋税 5%）

[ISBN978-4-902122-28-2] 医療文化社刊